

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4291100016		
法人名	株式会社ケアサービス・久		
事業所名	グループホーム夕陽の丘		
所在地	長崎県西彼杵郡長与町岡郷1669番地1		
自己評価作成日	令和3年10月28日	評価結果市町村受理日	令和4年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和4年3月7日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一日の食事に食材20品目使用を目標に提供しており、裏庭菜園での野菜作りや収穫作業を共にしています。日常生活では、コロナ禍で全体での外出が不可の為、楽しみの一つである食事に工夫を凝らしたり、ユーチューブ内蔵テレビを新たに購入し「映画」「昭和の歌謡曲」「介護予防体操」などに活用しています。また、くつろぎの時間にリラックスと浮腫予防を兼ねて「下肢マッサージ器」を二台設置し、利用者様の退屈しのぎや健康増進に活用しております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念にある「ゆっくり、ゆったり目を見て話す」を基に、代表が日々現場に入り利用者個人を尊重し「人対人」として真剣に向き合う姿勢は、職員に浸透している。職員間のコミュニケーションは良く、意見やアイデアも多く、職員手製のガーデニングや代表の愛情のこもった大工仕事などの創意工夫が随所に見られることは事業所の特長と言える。新型コロナ禍におけるストレス軽減に向けて、YouTube内蔵テレビの導入の他、個別の散歩や浜辺のドライブ、バイキングによる食事提供、裏庭菜園での収穫等、たゆまぬ努力が窺える。また、面会制限中の家族には個別にLINEを利用し、写真や動画で利用者の様子を届けたり、利用者直筆の暑中見舞いを送るなど家族との絆を深めている。協力医療機関と連携した医療・介護支援の提供も強みであり、利用者・家族が安心できる毎日の暮らしがみえる事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設玄関内と、事務所内に掲示してあり実践できている。	毎朝の申し送りや月1回のケア会議等の中で、理念に立ち返り職員間の意識を高めている。代表が現場に入り、利用者個人を尊重し「人対人」として支援することで、職員を導いている。こうした姿勢は理念にある「ゆっくり、ゆったり目を見て話す」に通じており、理念の具現化が確認できる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は地域の行事(ちびっこ相撲、ペーロン大会協賛)等に参加させて頂いていたが、コロナ禍で全体での外出等自粛している。個別でのお散歩は行っており、ご近所様とお会いした際は、利用者様の顔を覚えて頂けるよう挨拶や言葉を交わしている。	新型コロナ禍により中止となっている地域行事等での交流は収束後には再開予定である。日頃から、散歩等の外出時には地域住民と挨拶を交わしている。また、近隣に七夕の短冊を配ったり、AEDを施設内に設置していることを伝えるなど積極的に声を掛け交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で構成員さんへ、身近に認知症状でお困りの方がいらっしゃったら気軽に相談頂けるようお伝えしている。また、入所相談でもお困りごと等あれば気軽にご相談下さいと伝えていきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月毎の推進会議内で頂戴した構成員からの助言を活かしている。	今年度は新型コロナ禍のため書面会議で対応している。委員に資料を配付する際、利用者のマスク着用やストレス軽減など新型コロナ禍での課題について問いかけ、委員からの意見を支援に繋げており、書面会議を有効活用している。議事録は取りまとめ行政に提出している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の連絡協議会に所属しており、GHIに必要な案件時には参加している。	今年度は新型コロナ禍により行政のオンライン研修に参加している。日頃からサービスの取組を積極的に伝え、不明な点は電話や直接窓口に出向き問い合わせしている。町と広域地区、2つの連絡協議会に所属し必要な情報を得て、研修会に参加するなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月／1のケア会議内で、身体拘束会議も併せて行っている。また、拘束関係の研修会や講演には積極的に参加する体制である。	毎月ケア会議内で身体拘束廃止委員会を開き、指針を基に身体拘束をしないケアについて検討・協議している。言葉遣いについても職員間でその都度話し合っている。センサー等の使用については、家族と同意書を交わしている。日中の施錠はなく、職員による見守り支援を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待、身体拘束関係の研修会には積極的に参加。事業所内で共有し、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象者はおりませんが必要に応じて対応できるよう努めます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を基にご理解頂けるまで説明し納得頂けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や相談受付箱を設置しているが、訪問の際に身体や近況報告を交え会話の機会を確保できている。また、コロナ禍と言う事で、電話やLINEを通して報告している。	新型コロナ禍のため、面会は中断しているものの、LINEを活用しビデオ通話で顔を見ながら会話できることを知らせており、家族から要望がある時には日時を設定し、職員が付いて支援している。これまでに家族からの要望で、居室に事故防止マットを設置し、効果があったためリビングのソファ足元にも配している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	要望等は、気軽に話せる職場環境を目指しており受け入れられていると思います。	代表が現場に入って利用者に介護支援を行っており、職員は日頃から話しやすい環境である。職員のアイデアを基に、利用者が窓越しに季節を感じるように職員がプランターに花を植えたり、車椅子の利用者が車椅子のまま体重測定できる台を代表が手作りしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与内に特別手当を設けたり、誕休等を設けている。また、有休等も消化を促し取りやすい環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスキルアップの為の研修は要望があれば対応できる環境であり、必要に応じて研修会や講演会等に参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研GH協議会会員であり、町内外の代表同士での定期的な会合に参加。勉強会やセミナーに参加させて頂ける関係が築けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	独自の調査票を基に、ご家族様からの聞き取りを行い利用者様へアプローチを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の話し合いの中で、ご家族の不安や悩みを聞き取り解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報提供書や独自の調査票を基に、ご家族やSW、前任者へご意見等を伺い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフと利用者様とは、信頼関係が構築できており、冗談を交え家事を共に行っている。良いか悪いかはわかりませんが、お婆ちゃんと孫のような関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の出来る事、出来ない事を話し合っており、時にご家族の協力を頂きながら関係を築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人知人の訪問は歓迎している。お墓参りやドライブ中実家立ち寄りなどご家族の了承を得た場合は行っている。現在はコロナ禍で立ち入り制限している。	新型コロナ禍前は、家族のみならず遠方の兄弟が訪れたり近所の友人、カラオケ仲間等が訪問している。現在は、年賀状、暑中見舞いを書いて出したり、花見のドライブに出掛けている。裁縫教室の先生と生徒が共に入居しており、雑巾や台拭きなどを縫っている。馴染みの人や場との関係が途切れないための工夫がみえる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活では、様々な利用者間トラブルがありません。食卓席やソファーでの孤立を防ぐため性格等を考慮した配置に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で退所された方のお見舞いや、ご家族様の困りごとや相談を受ける事がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様とご家族様との意向に食い違いが生じた場合を除けば行えている。	入居から3ヶ月は家族に頻繁に連絡を取り、本人を知ること努めている。現在は一人ひとりの生活リズムを把握しており、起床時間は本人の思いを汲んで支援している。飲み物はコーヒーや紅茶等多種類準備し、希望に沿って提供している。発語困難な場合は、選択できる質問で把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前聞き取りで行えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の健康状態や認知症状は把握できており、変化があれば共有し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の気づきをケア会議内にて検討し合いプラン作成に生かしている。	月1回のケア会議で全職員で支援状況の検証を行っている他、介護日誌による計画の実践状況の記録や連絡帳にて情報共有を行っている。これらを基にケアマネージャーが達成度を評価し、計画の見直しに繋げている。面会時や電話等にて家族の要望も確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の日誌とは別に、スタッフ間で共有できる連絡帳にて、注意事項や連絡事項、プラン変更の取り組みや新たな取り組みに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、ご家族様の急な要望や相談には、その日の流れで対応できている。		

グループホーム夕陽の丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内ボランティアさんによる演奏会や、行きつけの郵便局に同行したり、行員さんの訪問など支援できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医をお持ちの方には個別で対応できる体制を整えており、緊急時の対応も訪問看護STとの連携によりスムーズな搬送や受診できる体制を整えている。	利用者の多くは週2回協力医の往診がある他、週1回訪問看護ステーションと契約し、連携を取っている。他の医療機関を継続受診する場合は家族が同行している。常勤の看護師が薬の管理や健康状態を確認している。夜間緊急時は、訪問看護師へ連絡後、主治医の指示にて対応しており、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設の看護職が、訪問看護STやかかりつけ医、薬剤師との連絡を密に行っている。また、訪看の週/1の訪問時に相談やアドバイスの共有ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病状経過は施設看護師と医療機関と密に行っている。また、事業所代表は定期的に病室を尋ねコミュニケーションを図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化と終末期の指針をお渡しし、説明している。医療機関や訪看とも情報共有できております。	今年は看取り支援に入る前に入院となった事例がある。過去には1例看取り支援を行っている。重度化・終末期の指針を、利用開始時や重度化の際家族へ都度説明し同意を得ている。同時に、家族の協力が必要であることも伝えている。ただし、看取り支援体制はあるものの、看取り研修の実施には至っていない。	看取り支援体制を構築していく上で、職員間で不安な点を共有しながら、年間研修計画を立て、看取りについての研修を重ね、理解を深めていくことが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	火災対応訓練時に、ダミー人形や訓練用AEDを用いて心肺蘇生方法を学んでいる。また、誤嚥時の対処方法等も訓練内で行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年/2回(消防立会い、自主)の訓練を行っている。消火器以外にも、投げ込み式消火剤や、台所用に油消火ステックを設置している。また、AED設置の旨を近所へ周知している。	年2回、消防署立会いの訓練と自主訓練を実施している。新型コロナ禍のため、屋外にて消防署員による消火訓練等の指導を受けている。また、自主訓練では避難の際のベッドから携帯用ギャッジへの移乗方法、通報訓練等に取り組んでいる。非常持ち出し品、備蓄の整備もある。ただし、地域消防団と連携した訓練の実施には至っていない。	有事の際、利用者の安全を守るためには、地域との連携が重要である。地域消防団と連携した訓練の実施に向け働きかけ、協力体制を構築することに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人その人に合わせた言葉使いができています。	職員は利用者を苗字にさん付けで呼ぶだけでなく、家族に了解を得て本人が慣れ親しんだ呼称で呼び掛けている。失敗時は周囲の利用者に知られないようにさりげなく誘導している。職員は守秘義務の誓約書を提出しており、家族には個人情報について同意書を得ている。個人ファイルは所定の場所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で話題を誘導し探り探り聞き出せるよう努めているが、会話不成立が多く難しいです。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様個々のペースは把握共有できているが、9名すべての生活リズムがあり、同時にこなす事は中々難しく業務都合になる事もあります。努力はしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	要望にて、白髪染め等行っている。また、髪留め類を用いたりスタッフによる美顔エステ器を用いてマッサージを行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話のネタになるので、あえてメニュー表は作らず利用者様との雑談の中でメニューを決めている。可能な方には簡単な調理も一緒に行っている。コロナ禍である事から、彩りに工夫を凝らす努力は行っている。	調理する職員が昼、夕のバランスを考えて献立を立てており、利用者の希望を聞き取って作ることもある。畑で採れた季節の野菜を使うことで会話の糸口となっている。誕生会はケーキを準備し、敬老会は仕出しを取り、手作りメニューで祝っており、事業所は、利用者にとって食事が楽しい時間となるよう工夫していることが見てとれる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事時以外に、摂取時間を定めている。これ以外にも気温湿度の変化で摂取促しや、ご本人からの要望にて行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月／2回の歯科医訪問をうけている。清潔を保ち、衛生士からの助言にて実行できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の拒否や、やむを得ない場合を除きオムツ外しを促進している。	日中はトイレでの排泄を支援しており、毎日の排泄状況を把握し、時間を見ながら誘導している。職員の丁寧な支援により失敗が減少し、布パンツにパッドで過ごす利用者があり、排泄の自立に向けた支援を継続している。パッドのサイズは本人に適したものとなるよう職員は検討を重ねている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	施設看護師による排便調整や、医療機関や訪看訪問時に相談や助言を頂いている。食材も野菜や果物を多くとり入れる努力を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本の入浴日は設定しているが、個別の対応入浴もできている。入浴拒否が多い為、入浴剤も数種準備したり、風呂場ドアに温泉効能や〇〇の湯などの掲示板を設置し楽しく入浴できる工夫はできている。	入浴は夏場は週3回、冬場は週2回支援している。入浴日以外は、発汗の様子を見ながら清拭や更衣を行っている。浴室は家庭用であるため、車椅子の利用者はシャワー浴となっている。入浴時は好きな音楽を流したり、入浴剤を入れるなど入浴が心地よい時間となるよう支援していることがわかる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の温度や照明光量を利用者様の習慣に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	独自の服薬管理シートや振り分けBOXを活用し誤薬がなよう注意している。また、施設看護師が薬剤師さんとの情報共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力(裁縫、調理、園芸)を十分に発揮頂いている。裁縫が得意な利用者様が多く、雑巾やふきん類を作成してもらっている。お礼の言葉がけで充実した笑顔や表情がみられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は全員で外出機会を設けていたが、コロナ禍により、個別のお散歩や近辺ドライブを行っている。	暖かい日は敷地内の庭を散歩している。新型コロナ禍前は近隣の足湯に出掛けたり、蜜柑を買うなど地域に外出することも多い。現在は、通院帰りに景色を見て楽しんでいる。また、リビングに陽が射すため日光浴ができる他、職員手作りの花壇の花を愛でている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の要望があれば行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いは行っている。要望があれば手紙の支援は行える。電話に関してはご家族の意見も聴きながら対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには観葉植物を置き、また利用者様が種まきした鉢花壇を窓から見える場所に置いて楽しんでいる。日差しを遮ると景色が見えないので、メッシュ日よけを設置し両立できるようにしている。	採光の良いリビングでは、YouTube内臓テレビをゆっくりと観覧できるようにソファを配置している。利用者は、窓越しに職員手作りの花壇を眺めたり風船バレーを楽しんでいる他、裁縫や園芸など得意なことに取り組んでいる。ソファ下には事故防止マットを敷き安全に配慮している。職員は室温湿度管理や消毒等感染症対策に徹している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置しているが、食卓椅子のシートが硬く避け気味だったので新たに食卓と椅子を新調した。また、TV視聴をもっと楽しんでもらう為にソファ位置を変更。新調した食卓は軽作業や団らんの場となっている。居室には個別に椅子を設置しゆったりできるよう行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、はなるべく使い慣れた家具を使用して頂くよう説明している。	収納扉前には室内干し用ロープを備え、衣類などの整理に役立っている。持ち込みに制限はなく、使い慣れた家具や家族の写真などを配置している他、愛読書がタンスの上や枕元にあり、自宅同様に暮らす様子が窺える。職員は毎日の清掃や寝具交換により清潔保持に努めている。寒さ対策で湯たんぽを使用している利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、自室には目印になる物を設置している。		